

教頭通信

見方が変われば、見えるものも
違ってきます。ちょっと立ち止ま
る機会になれば幸いです。

2月25日

NO. 39

結果よりも過程を大切に

いよいよ卒業式も近づいてきました。その卒業指揮に向けての練習がスタートしました。最高の卒業式は、子どもたちが「先生の力を借りずに自分たちで作上げた立派な卒業式だ。」と自覚したときに生まれると思います。

卒業する子どもたち一人一人が主役になり、卒業を自覚し堂々と胸をはり、自分にできることは精一杯取り組み、在校生一人一人が脇役として自分にできることを人に頼らずにできるように支え合う仲間作りをめざすことができたらいいなと思います。

そのためには、卒業式に向かうまでの過程が大事になります。

<大切にしたいこと>

・どんな自分にしたいのかを考えさせたい。

卒業式の自分の役割を果たすことは当然ですが、その役をすることがとても大事なことになるのだと感じているか、先生に言われてしているかでは、今後の取り組み方に影響を及ぼします。卒業式に立ち向かう自分としてどんな自分がふさわしいのかを意識することで取り組む構えができます。

(例) 高学年としての自覚の芽生え・・・責任を果たす義務、リーダーとしての自覚
卒業するものとしての自覚・・・一人立ちの自覚や自信

・事を進める上で落としてはいけないことや進め方をつかませたい。

見通しをもつことで、自分のすべきこと、仕方や考え方を教えないといけないことがたくさんあります。よりよい結果を作り出すために今何を努力すべきなのか、そのように努力すればよいのかをつかませたいと思います。

(例) 式の流れの中で誰を見たり、聞いたりすることが成功につながるのか。

個人の練習としてすべきことや仲間と一緒にすべきことは何か。

仲間に配慮しなければならないことは？自分が努力しなければならないことは？

・その事に意欲をもって取り組ませたい。

仕方なしにしていることや慣れでしていることがきつとあると思います。意欲的に進めるためには、している最中の認め励ましが支えになります。やる気を持続させるための手だてをうたなければ、意欲を高められない子どももいることを考えて取り組みたいと思います。

(例) 式練習の最中の私語、拍手、歩き方への配慮

指揮者を見ての演奏、合唱

・練習中に身に付けたことへの評価をしたい。

子どもたちなりに式に向かう練習をとおして成長しているところを見逃さないことが、次の活動への意欲につながります。子ども一人一人を見つめ、子どもなりの成長の跡を見届けたいと思います。

(例) 練習を始める前の考え方と同じだろうか。

配慮していることは前と同じだろうか。

取り組み方は前と同じだろうか。

手際のよさは前と同じだろうか。

6年生にとって最後の行事です。子ども一人一人が自信をもち、仲間と一緒に作り上げたと思える最高の式にするために過程を大切にし、お互いに自分のできるところで精一杯力を発揮したいと思います。宜しくお願いします。